



大阪・関西万博

2025年4月に開幕する大阪・関西万博が逆風にさらされています。会場建設費は2350億円で、最初に想定していた額から1.9倍にふくれあがりました。支払いは経済界、国、大阪府・大阪市で3等分するため、税金がたくさん使われます。万博は、世界の国や企業が新しい製品や

技術をしょうかいするイベントです。1889年のフランス・パリ万博では、エッフェル塔が建設されました。日本では1970年に大阪で初めて開かれ、動く歩道などが注目されました。ただ、いまの時代、新しい技術の情報も多くはインターネットで得られます。大阪府と市は、万博を計画通りに開こうと必死です。会場になる人工島・夢洲の活用が、長年の課題だったからです。でも、共同通信の世論調査では、約7割が大阪万博は「不要だ」と回答しました。

テーマ

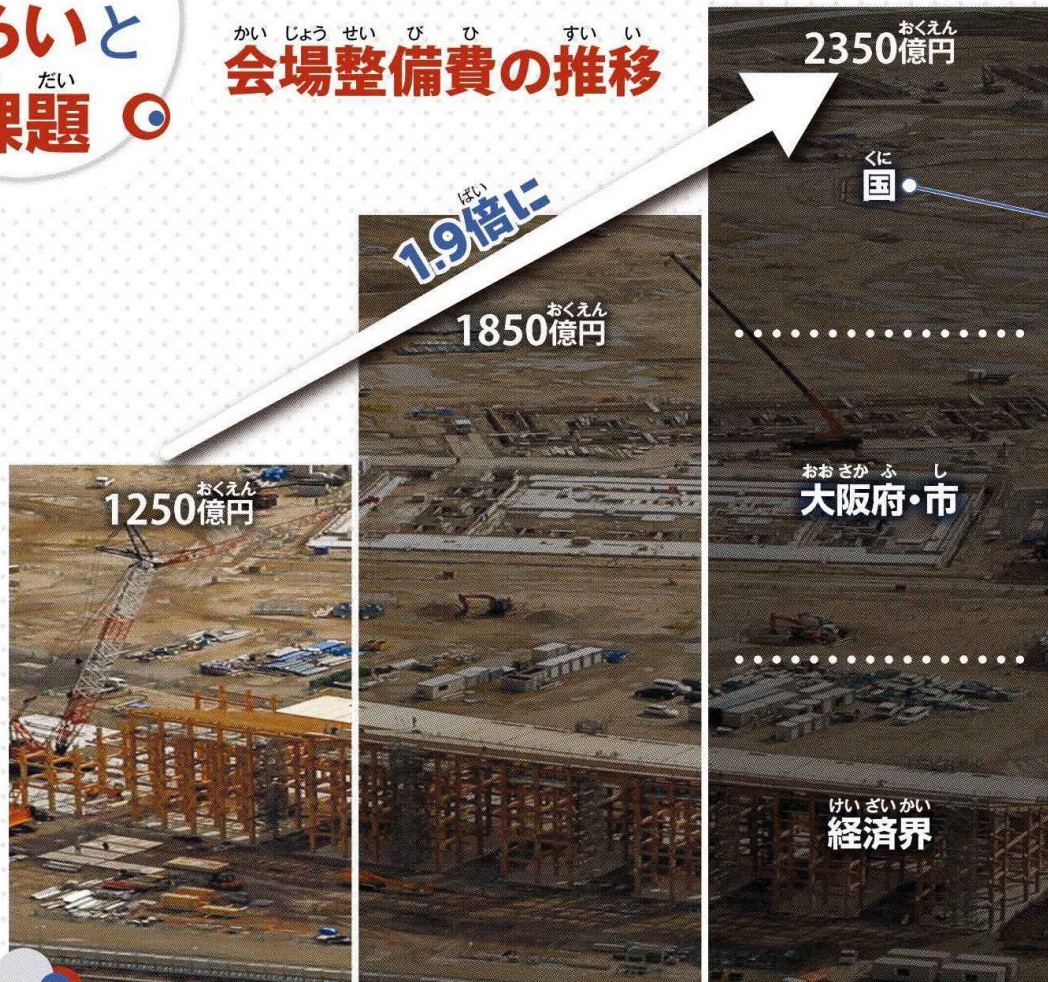
かがや みらいしゃかい
「いのち輝く未来社会のデザイン」
Designing Future Society for Our Lives

- ① 国内外から投資拡大
- ② 地域経済の活性化
- ③ 日本文化の発信など



万博の
ねらいと
課題

会場整備費の推移



2018年

2020年

2023年

課題1

会場建設費が増えた
国の負担

783億円?

課題2

海外パビリオン建設おくれ
着工期限

5か月先送り

課題3

開催意義への疑問
世論調査

開催「不要」68%